

2023年3月期 決算説明会資料

2023年5月18日
株式会社イーディーピー
東証グロース（証券コード:7794）

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

目次

1) 当社の概要

2) 主要なポイント

3) 決算実績

4) 2024年3月期の業績予想

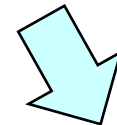
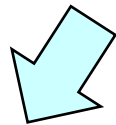
Appendix

1) 当社の概要

イーディーピーとは

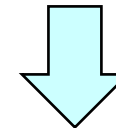
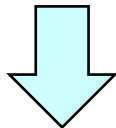
EXCELLENT DIAMOND PRODUCTS

優れた特性をたくさん持つ、ダイヤモンドの応用製品で、
社会的な課題を解決



ダイヤモンドも人工宝石へ
置き換わる時代が近づく
原料である種結晶市場を創生

エレクトロニクス応用へ
向けて、大量生産に適用
出来るダイヤ素材を供給



種結晶や宝石原石の販売

大型ウエハや複合ウエハ
を開発し、市場を創造

人工宝石(LGD)の普及が急速に進む

LGD: Laboratory Grown Diamond(研究室で育ったダイヤモンド)

- ◆天然ダイヤモンドの持つ負の側面がないLGDは、SDGsの観点から世界中で受け入れられている。
- ◆LGDの気相合成による製造に必須の原料である「種結晶」の販売で、当社の種結晶は世界的なブランド種結晶とされている。
- ◆10年後に、ダイヤモンド宝石の半分以上がLGDに転換すると予想している。

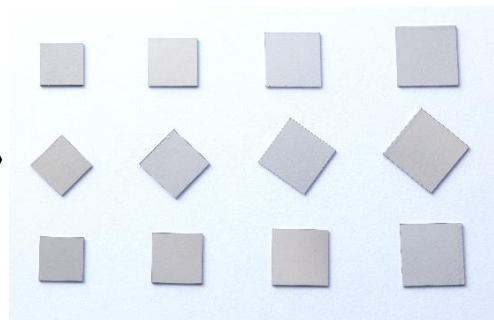
モザイク結晶素材



0.3mm厚モザイク結晶



各種サイズの種結晶



8~11mm□



成長した原石



3mm厚に成長

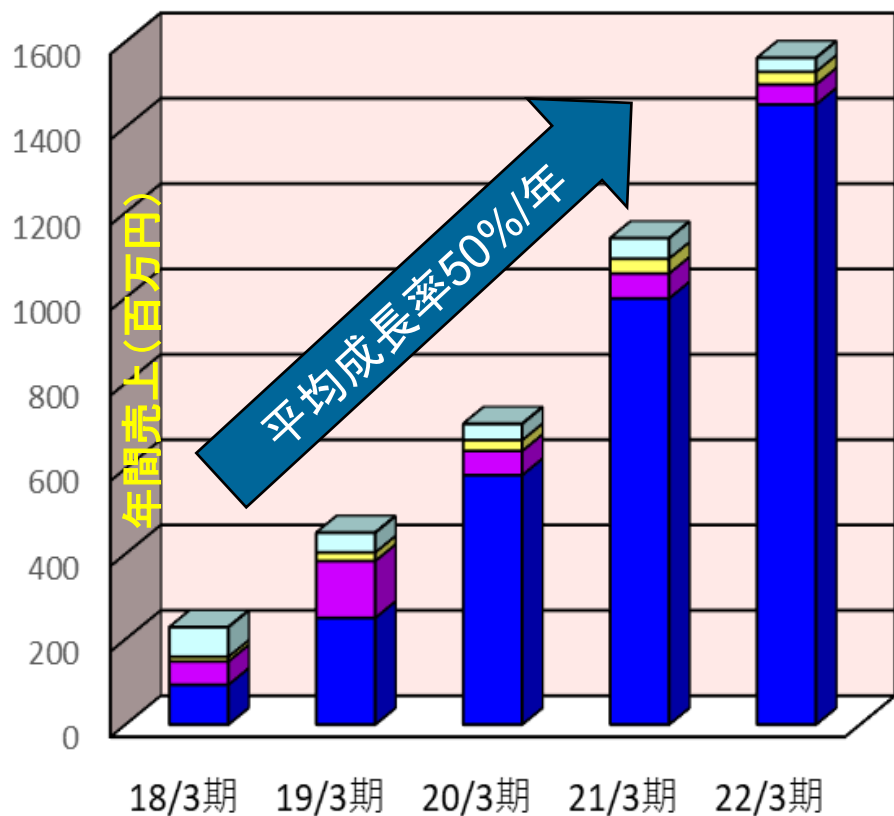


完成した宝石



ブリリアントカットの宝石

2022年3月期までの軌跡



2009年 産総研発ベンチャー100号の称号
基板及び工具素材の発売

2012年 種結晶の本格的発売
25x25mmモザイク基板の発売

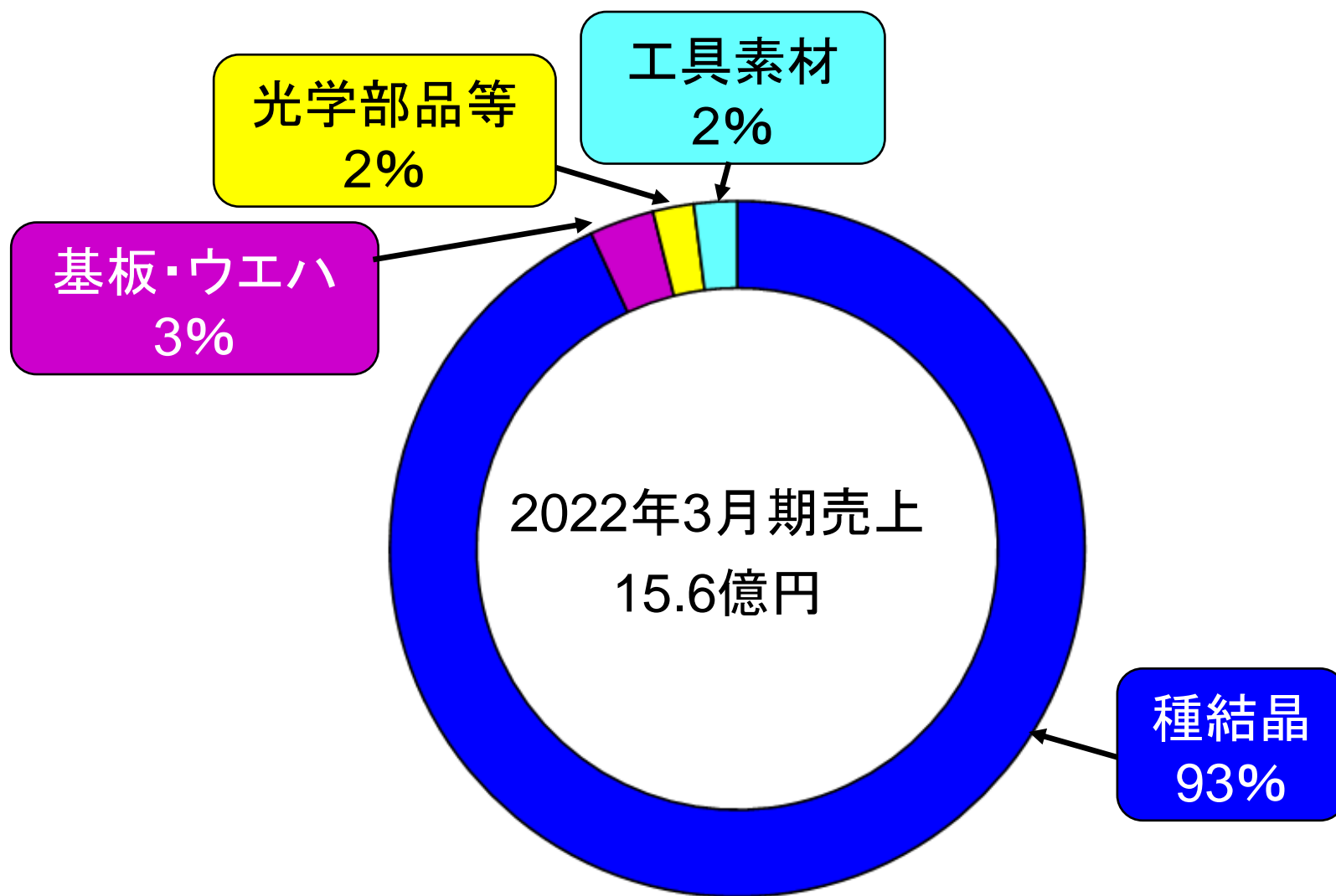
2015年 (現)横江工場の稼働
産総研特許の独占実施権取得

2016年 大学発ベンチャー表彰で
内閣総理大臣賞を受賞

2017年 10x10mm種結晶の発売
Bドーパエピ成長基板の発売

2022年 東証グロース市場への上場
島工場の稼働

2022年3月期の分野別売上



2) 主要なポイント

主要なポイント

- ①2023年3月期は、前期比増収、増益で、いずれも過去最高を記録した。2022年6月に東証グロース市場に上場し、ガバナンス体制を整えてきた。
- ②2021年11月に建設をスタートした島工場は、2022年11月から稼働し、2023年3月には計画していた全ての装置が揃い、当初計画の生産能力を確認した。
- ③2023年第4四半期から、LGD市場が供給過剰感から、小型品を中心に値下がりが起こり、ユーザーの生産減少により、種結晶受注も大幅に低下した。
- ④この動きに対応するため、種結晶の販売戦略を変更し、ユーザー数を拡大した。大型種結晶を全てのユーザーに供給することとし、大型種結晶比率は上昇した。
- ⑤基板・ウエハも研究開発の進展で売上が増加した。

3) 決算実績

決算ハイライト

(2023年3月期)

売上高

+73.3%

(前期比)

営業利益

+146.1%

(前期比)

営業利益率

47.3%

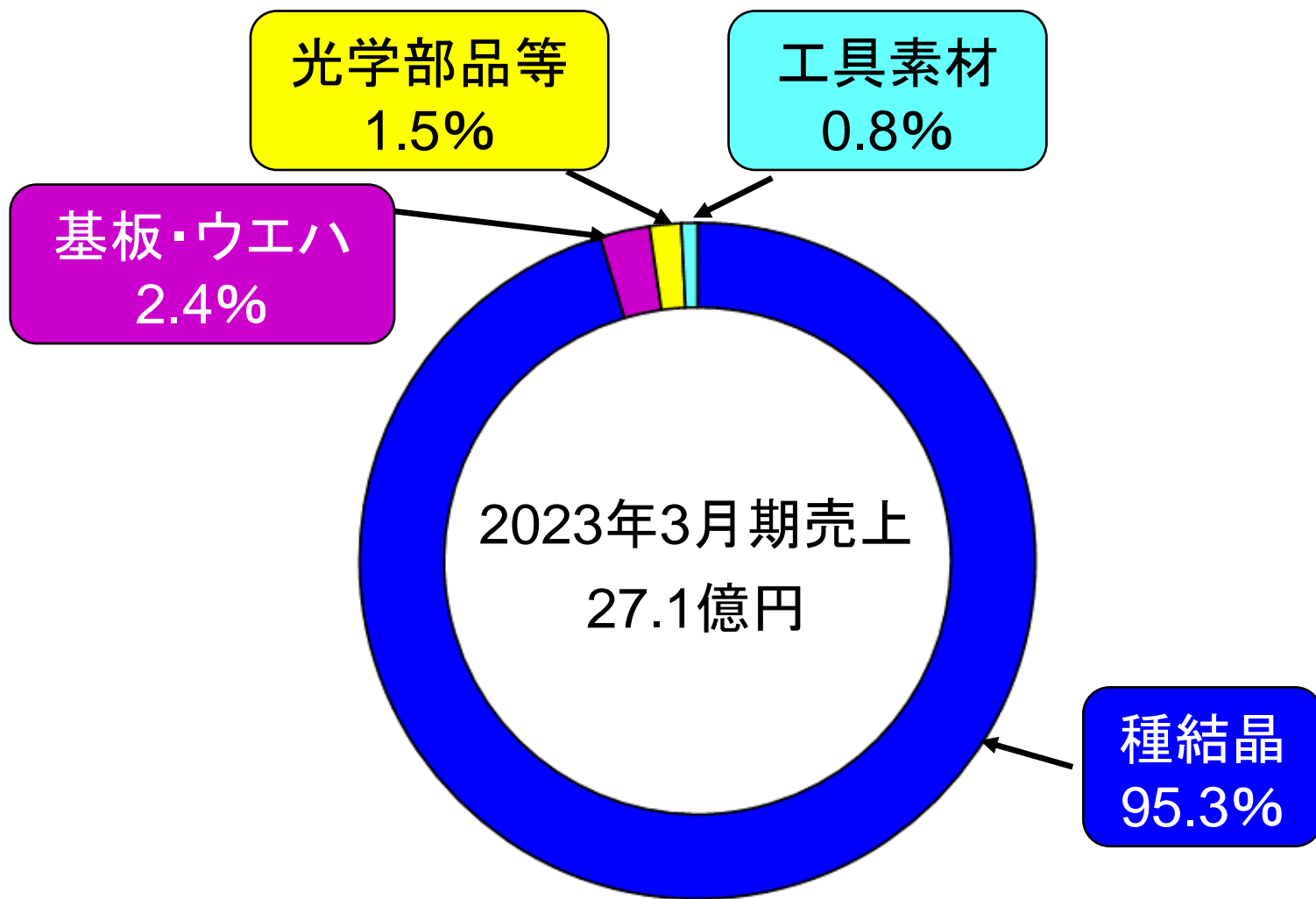
(前期比1.42倍)

大型種結晶比率

38.2%

(前期比1.64倍)

2023年3月期分野別売上



2023年3月期業績

百万円

	2021年度	2022年度			
	通期実績	修正見通し	通期実績	対前期比	
売上高	1,562	2,706	2,707	+1,145	+73.3%
種結晶	1,453	2,591	2,581	+1,128	+77.6%
宝石原石	-	0	0	0	0%
基板・ウエハ	47	60	67	+20	+43.3%
光学部品等	29	36	37	+8	+27.4%
工具素材	32	19	20	-11	-34.3%
営業利益	520	1,242	1,280	+760	+146.1%
経常利益	527	1,217	1,280	+753	+142.6%
当期純利益	374	840	909	+535	+142.7%
成長能力(カラット)	110,000	150,000	150,000	+40,000	+36.4%

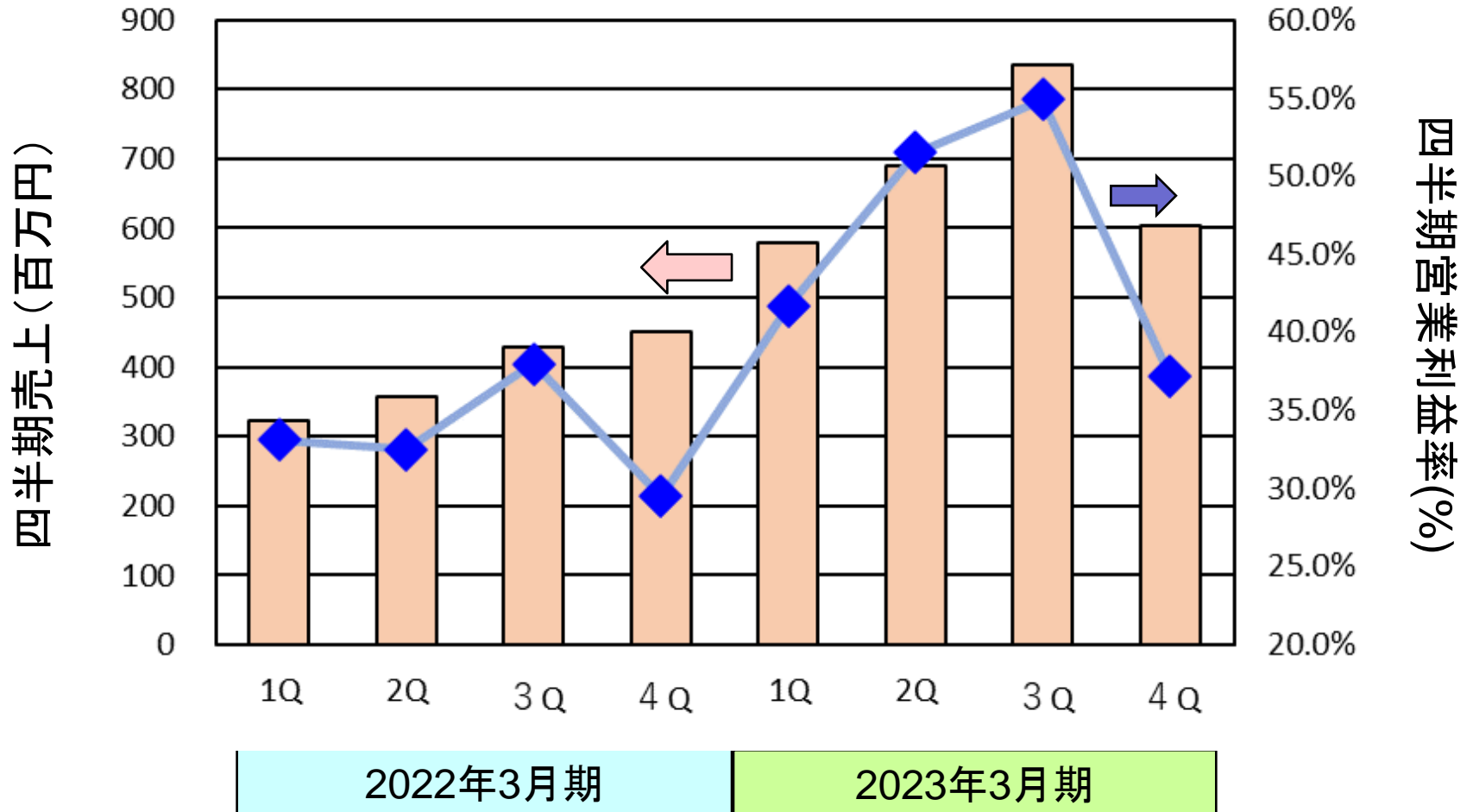
2023年3月期四半期別業績推移

百万円

	2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	323	357	429	451	579	689	834	603
種結晶	302	329	396	414	557	671	795	557
基板・ウエハ	8	7	13	16	4	6	25	28
光学部品等	2	6	11	9	12	5	7	13
工具素材	9	3	8	11	4	6	5	4
営業利益	107	116	163	133	241	355	458	224
経常利益	105	118	169	165	272	376	398	232
当期純利益	88	84	112	89	197	262	267	182

設備投資と生産の効率向上で、売上が拡大
第4四半期は受注が急落したが、
営業方針の変更で最低限の売上を確保

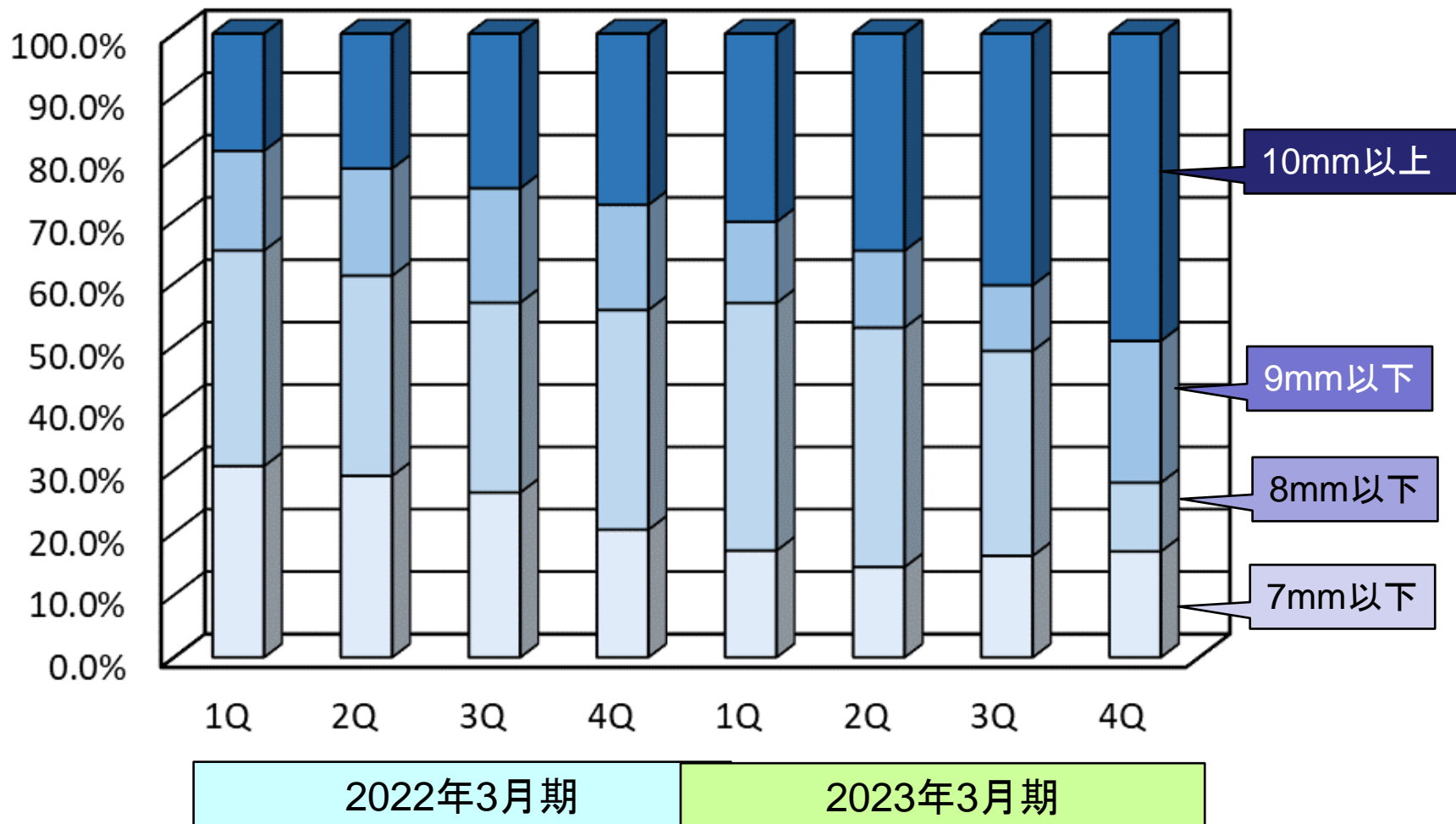
四半期売上と営業利益率推移



第4四半期は、売上減少と期末諸費用のため利益率下落

四半期別種結晶サイズ別出荷比率推移

10x10mm以上の大型品が、50%を越えた



BSの推移

百万円

	2020年度	2021年度	2022年度
流動資産	1,186	1,418	2,962
現預金	948	1,066	2,239
売上債権	100	137	229
棚卸資産	104	171	455
固定資産	1,094	1,398	3,054
総資産	2,280	2,817	6,016
負債	645	772	1,085
有利子負債	452	439	350
純資産	1,634	2,045	4,930
負債及び純資産	2,280	2,817	6,016

上場による増資で、純資産が2.4倍に拡大し、
島工場の建設で固定資産が2.1倍に増加

島工場が2022年11月に稼働



床面積 2085m²

4) 2024年3月期の業績予想

2024年3月期の業績計画ハイライト

売上高

+26.2%

(前期比)

営業利益

+14.0%

(前期比)

純利益

+10.6%

(前期比)

売上の変化

基板・ウエハ 67→97百万円

原石 0→45百万円

2024年3月期業績予想

百万円

	2022年度	2023年度		
	通期実績	通期予想	対前期比	
売上高	2,707	3,417	+710	+26.2%
種結晶	2,581	3,208	+628	+24.3%
宝石原石	0	45	+45	-
基板・ウエハ	67	97	+30	+44.7%
光学部品等	37	44	+7	+18.9%
工具素材	20	23	+3	+15.0%
営業利益	1,280	1,460	+179	+14.0%
経常利益	1,280	1,457	+176	+13.8%
当期純利益	909	1,005	+96	+10.6%
成長能力(カラット)	150,000	220,000	+70,000	+46.6%

売上予想についての検討内容

- ◆LGD用種結晶のビジネスは、一時的な落ち込みはあるものの、全体としては増加する見込み。
- ◆LGD原石は、LGD特有の宝飾品への展開を進め、これに使用する特殊形状原石を本年度に商品化する。生産設備の一部を転用して、量産体制を整える。
- ◆基板・ウエハは、進展しているダイヤモンド関連デバイスの要求に合致する製品を、供給する。量子デバイス用(111)基板や、縦型デバイス用低抵抗基板を量産するとともに、2インチウエハの開発を継続する。
- ◆ヒートシンクや光学部品としての利用に対応するため、研磨コストの低減を進め、市場要求に合致した形態や価格を実現する。

考慮すべき事項

- ◇昨末からの小型LGDの供給過剰問題は、早晩解決される見通し。当社の種結晶生産能力が拡大していることから、思い切った価格政策を採ることも可能。
- ◇貿易管理令の改正によって、輸出品は製品ごと、国ごとの対応を行う必要があり、経産省ともコミュニケーションを取って、適切な対応を行う。
- ◇基板・ウエハの市場拡大は、急速に進みつつあり、当社が大型ウエハや低抵抗基板等の、新製品を実用化することが求められている。開発リソースをどれだけ増やすことが出来るかが、今後市場での当社の位置づけを決めると見られ、人員増強と開発設備投資を検討している。

Appendix

会社概要

社名	株式会社イーディーピー			
代表者	代表取締役社長 藤森 直治			
設立年月	2009年9月8日 産総研発ベンチャー第100号			
本社所在地	大阪府豊中市上新田4丁目6番3号			
工場	横江工場、島工場			
資本金	14億8381万円（2023年3月31日現在）			
役員構成	代表取締役社長	藤森 直治	常勤・社外監査役	岡田 宗久
	専務取締役	高岸 秀滋	監査役	西野 徳一
	常務取締役	林 雅志	社外監査役	池見 達穂
	社外取締役	北城 恪太郎		
	社外取締役	加茂 睦和		
事業内容	ダイヤモンド単結晶及び関連製品の製造、販売、開発事業			
売上規模	27億721万円（2023年3月期）			
従業員数	76人（派遣社員17人を含む）（2023年3月31日現在）			
総資産	60億1645万円（2023年3月期現在）			
主要取引先	インド、イスラエル、米国、欧州等のLGD製造メーカー。 理科学機器企業、エレクトロニクス関連企業、ダイヤモンド関連V C 産総研等の国内外の公立研究機関、京大等の国内外の大学			

当社の設立背景

- * 産総研で開発した大型単結晶ダイヤモンド技術を、スピンアウトベンチャーとして実用化
- * 量産技術と製品に対応する技術の開発で、大型結晶の大量販売と各種の製品を実用化
- * 産総研出願特許の独占実施権を保有

□イオン注入による分離技術
□複数単結晶を接合したモザイク結晶技術

17件の基本特許出願



量産技術開発

- * 高速分離技術による大型結晶の大量製作
- * 大型モザイク結晶の開発
- * モザイク親結晶大量保有

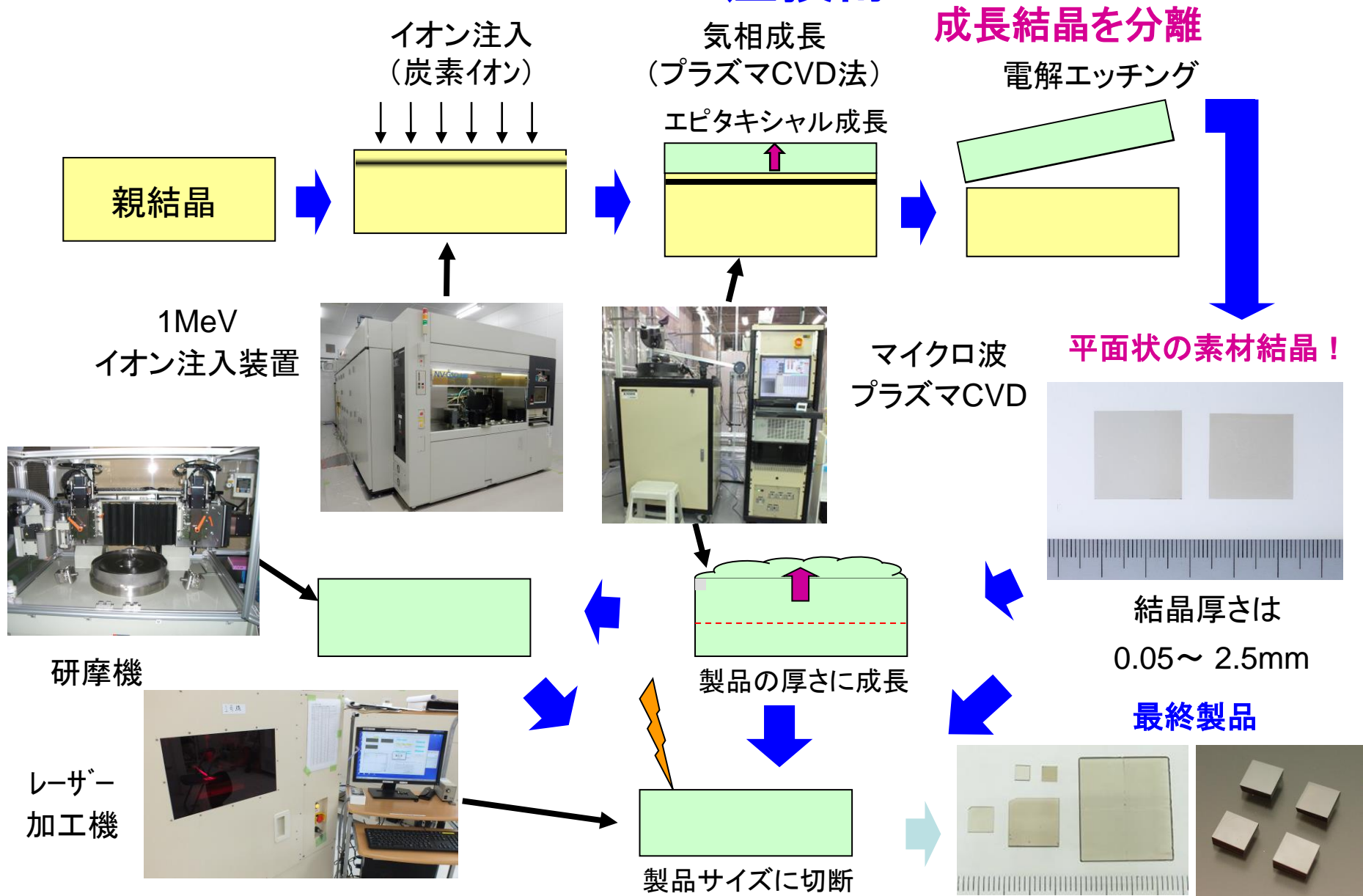
独占実施権の付与



製品化

LGD用種結晶
30x30mmウエハ
B⁺フ⁺エ⁺基板
X線管用窓材

EDPの生産技術



生産工場内



イオン注入



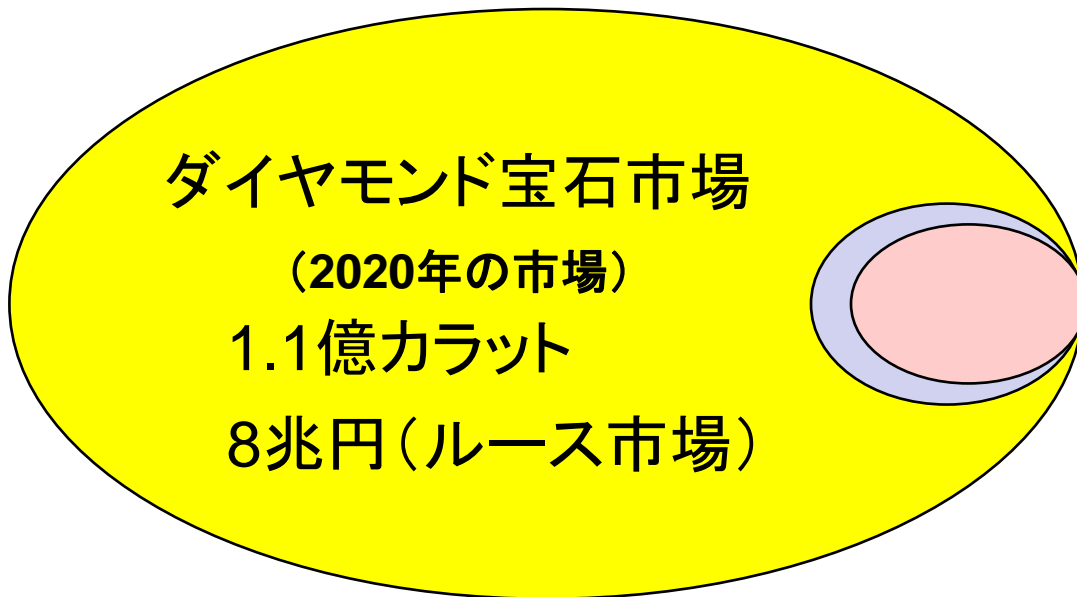
レーザー



成長装置

LGDビジネスの位置づけ

- ◆ダイヤモンドは生産重量では研磨剤、金額では宝石が最大市場
- ◆2020年の宝石生産量は1.1億カラットで、その6%がLGDとされる。
- ◆現在では10%以上となっており、3000億円以上の市場と認識
- ◆気相合成法(CVD法)で、大型品や高品質品を生産している。



LGD市場: 0.1億カラット
3000億円

気相合成LGD:
4~500万カラット
2500億円以上

LGDは工業製品であるため、鉱山開発による自然破壊や、
児童労働等のSDGs上の問題点が無い

ダイヤモンド成長能力の推移と計画

成長装置で可能なダイヤモンド生成量(カラット)

